

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 96 2014年3月15日発行
郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

チェルノブイリ28周年救援キャンペーン

講演会「チェルノブイリと福島」

2014年4月24日(木) 19:00開演(18:30開場)
文京シビック 小ホール(東京・文京区)

★スライド講演: 広河 隆一 「最新報告 チェルノブイリと福島」

ゲスト: シネオカヤ・インナ(ウクライナ)「原発事故の被災者として、母として生きる」

広河隆一写真展「チェルノブイリと福島」

4/12(土)～4/16(水)
文京シビック 1F 展示室2

(講演会・写真展の詳細は
次ページをご覧ください)



イベント開催のための賛同金を募集しています。
一口1,000円 みなさまのご協力を
よろしくお願いいたします。



たとえ平和目的であっても原子力を利用してはならないと、私は確信します。
原発で働く人たちは被曝しています。人々の犠牲の上に成り立つようなエネルギーは要りません。生まれたばかりの赤ちゃんにまで、すでに原子力の負担を強いているのです。この世で一番大切なもの、それは生命であり、子どもたちだということを理解してほしいと切に願います。子孫にどのような世界を残したいのかを考える必要があります。緑あふれるきれいな大地なのか、あるいは何百年も何も植えることができないような有害で汚染された大地なのか。

どうか正しい選択をして、自分と子孫たちを守ってください。

(インナの母親リディヤさんからのメッセージ)

チェルノブイリ 28 周年救援イベント 2014 年 4 月

講演会・写真展「チェルノブイリと福島」

チェルノブイリ原発事故から 28 年、福島原発事故から 3 年が経過しました。この間、福島取材を続け、3 月にはチェルノブイリ取材も行った広河氏の講演会を開催します。ウクライナからのゲスト、インナさんは自らの経験を語ります。講演会に先立ち、「広河隆一写真展」も開催します。三重県でもイベントが行われます。みなさまどうぞ足をお運びください。

☆イベント開催のための賛同金を募集しています。一口 1,000 円
郵便振替口座 00160-4-98316 チェルノブイリ子ども基金

講演会

「チェルノブイリと福島」

4/24 (木) 19:00 開演

文京シビック 小ホール (東京都文京区)

最寄駅: 東京メトロ 丸ノ内線・南北線「後楽園駅」、都営地下鉄 三田線・大江戸線「春日駅」、JR「水道橋駅」

入場料: 1000 円 (中学生以下無料) 予約受付中

< 講演 >

◆広河隆一

「最新報告 チェルノブイリと福島」

フォトジャーナリスト、DAYS JAPAN 編集長、
「沖縄・球美の里」理事長、「チェルノブイリ子ども基金」設立者

◆シネオカヤ・インナ

「原発事故の被災者として、母として生きる」
1981 年、ウクライナ生まれ。4 歳のときにチェルノブイリ事故で被曝。13 歳のときに甲状腺がんの手術。2008 年に娘を出産した。2011 年には福島第一原発事故を受けて、子ども基金を通じて日本の人々へのメッセージを寄せた。



※インナの母親リディアさんからのメッセージも紹介します。

インナの娘マリアンナは 5 歳になった

広河隆一写真展

「チェルノブイリと福島」

4/12 (土) ~ 4/16 (水)

10:00 ~ 20:00 (初日のみ 12:00 ~)

文京シビック 1F 展示室 2 入場無料

〔講演会・写真展主催〕チェルノブイリ子ども基金／チェルノブイリ子ども基金・文京／未来の福島こども基金
〔予約受付・問合せ先〕
チェルノブイリ子ども基金

Tel/Fax: 03-5228-2680

E-mail: cherno1986@tokyo.email.ne.jp

< 三重 >

◆チェルノブイリ 28 周年企画

< チェルノブイリ・福島 いのちは宝 >

4/26 日 (土) 13:30 ~ 16:00

津リージョンプラザ お城ホール (津市)

入場料: 2000 円 (前売り 1500 円)

大・高・中生 500 円 (前売り当日同額)

・シネオカヤ・インナの話 ・音楽①内田ボブ②ラニヤップ (小室等+ゆい) ・朗読劇「チェルノブイリ」高校生・三重大医学部生による展示
〔主催〕みえ 426 の会

〔問合せ〕T/F: 059-229-3078 T: 090-1239-1410 E-mail: dotenoskanpo@yahoo.co.jp

支 援 報 告

子ども基金ニュース 95 号（2013 年 12 月発行）に掲載した支援について、現地よりお礼と報告が届きました。

~~~~~

## ◎ウクライナ 「内分泌研究所」

子ども基金が支援した医薬品が、昨年 12 月末、「内分泌研究所」に届きました。その後、2014 年 1 月 31 日に、薬受け渡しの報告が送られてきました。

当病院で治療をした、甲状腺がんの手術を受けた患者（チェルノブイリ事故当時 0 歳～18 歳）に以下の薬を渡しました。

- ① Lチロキシシン：32 人に対して 217 箱
  - ② カルシウム剤：35 人に対して 209 箱
- ご支援に心よりお礼を申し上げます。

内分泌研究所 所長 N・トロニコ  
放射線核種診断部門 副部長 V・マルコフ



届いたばかりの薬を手にするマルコフ医師（中央）と看護師のおふたり



届いた薬の段ボール箱には、子ども基金のシールが貼付されており、患者に渡される各小箱にも貼付される。

## ◎ベラルーシ

### 「困難の中子どもたちへ希望を」



小児がんや他のさまざまな病気の子どもを会員にもつ、この団体が開催したクリスマス会開催費用の一部（プレゼントのお菓子・果物の購入費用）を支援しました。かつては地元の企業などから寄付金を受けたり、製菓企業から直接品物の寄付などがありましたが、近年はそんなことがほとんど期待できないそうです。病気の子どもたちは、入院や、自宅療養が続くと、ほかの子どもと接する機会が極端に少なくなります。また普段、団体の会員同士、交流をもつ場がほとんどありません。そのような中、年に一度のこのクリスマス会は、子どもとその親にとって、大切な交流の場となっています。昨年に続き今年も地元の大学生たちがボランティアで参加。クリスマスの雰囲気を出した衣装を着て、ゲームや芝居を行い、子どもたちを楽しませました。子どもたち自身も舞台に立ち、歌や詩を披露しました。



プレゼントを手にする子どもたち



お菓子の入った箱



## 2013年7月 家族訪問 ベラルーシ(3)

報告 佐々木真理

今年4月のイベントに招待するウクライナのインナさん同様、子どもの頃に甲状腺の手術を受け、その後、結婚・出産し、母親となっているベラルーシの二人の女性を訪問しました。

~~~~~

K・ナターシャ

1983年生まれ

ミンスク市

ベラルーシのサナトリウム「希望」で開催された、子ども基金主催の「甲状腺手術後の子どものための特別保養」に参加した。98年(15歳のとき)には、チェルノブイリ子ども基金奥羽支部の招きで、母親と二人で来日。岩手県で多くの人々と交流をした。学



校を卒業後、地元ゴメリ市の郵便局に就職、その後、同じ町の男性と結婚。数年後、夫の仕事先のミンスク市に引っ越し、現在は市内のアパートで、夫と二人の息子と4人暮らし。

「以前、夫の職場の寮に住んでいた時は、とても不便な生活でした。共有の台所は自分たちの部屋から離れているし、お風呂とトイレは隣の家族と共有。元々単身者用の部屋でしたので、夫と上の息子と3人で暮らすには狭すぎました。今は自分たちの部屋で暮らすことができとても幸せです。まだ家具など少ないですが、これからだんだん揃えていきたいです。下の子どもが幼稚園に通い始めたので、昨年末から職場(ミンスク市内の郵便局)に復帰しました。帰りが遅くなることも多くて、子育てと仕事の両立は大変」と言いなが

らも、子どもの話になると笑顔がこぼれる。「兄弟でも性格が全然違っておもしろいのです。長男のマトヴェイは顔も性格も夫に似ています。次男のセルゲイは私に似ているでしょう?」

ナターシャは今でも「希望」で一緒に保養をした仲間たちと交流がある。そのうちの一人の青年が、2年前突然亡くなり、とてもショックを受けた。彼の母親に連絡を取り、お墓参りに行ってきたという。

2011年の震災・原発事故以降、日

本のことをとても心配している。「最近ベラルーシでは日本の情報がとても少なくなっています。子どもの頃に日本で過ごしたことは、一生忘れることのできない思い出です。美しい自然や、親切な人々、あの素晴らしい国があんなことになってしまったことがとても残念です」子ども部屋の棚の上の方に、日本人々から贈られたぬいぐるみや民芸品などが飾ってあった。小柄で童顔のナターシャは、どこでも年相応には見られない。「クリスマス用にシャンペンを買に行ったら、年齢確認のために身分証明書を見せるように言われました」と笑う。そんなナターシャも、生まれた町を離れ、2児の母親としてたくましく生きている(写真: ミンスク市内のアパートの前で。下の息子セルゲイと)。

Z・エレナ
1984年生まれ
レチツァ市



子どもの頃に「希望」での保養に参加。また昨年夏には「チェルノブイリ被害者家族のための保養」に息子ダニーラと二人で参加した。「まさか、自分が大人になって、またこのサナトリウムに来ることができるとは、夢にも思いませんでした。子どもの頃に来たときも楽しかったですが、今はさらに設備も充実し立派になっていて、とてもうれしく思います。保養に参加した他の母親たちと交流ができたのはとてもよかったです。これからも連絡を取り合っていくと思います。また、子どもの頃にここに来た時、私のグループの世話係だった職員と再会することができました。こんな長い年月を経た後で、ここで知っている人に会えるとは思いませんでした。長い年月の後の再会を、抱き合って喜びました。思い出に残る素晴らしい保養になりました。日本の人たちが、こんなに長い間私たちを支援してくれていることに驚き、感謝の気持ちでいっぱいです」

現在は、レチツァ市のアパートで夫と子どもの3人で暮らしている。訪問時、夫はモスクワに働きに行っていた。地元ではなかなか仕事がなく、よく遠くの町まで長期間働きのいくという。「夫の実家は歩いてすぐのところにあり、子どもを連れて散歩の途中に立ち

寄ったりします。義父母は優しくて親切で、私はとても恵まれています。夫も義父も建設労働者です。自分たちでなんでも作ったり修理したりできるので助かります」エレナの姉と従妹も、子どもの頃に甲状腺の手術を受けた。二人にもそれぞれ子どもがいる。姉は近所に住んでいて、訪問時、姉の二人の娘がエレナの家遊びに来ていた。ダニーラのよい遊び相手になってくれるという。アパートの窓からは、ドニエプル川と周辺の緑の平原が見渡せる。「ここ

からの眺めはきれいでしょ。散歩したりピクニックするにも、とてもいいところなんですよ」と誇らしげに微笑む。ダニーラを乳母車に乗せ、近所を散歩した。「あそこに幼稚園があって、向こうに小学校があります。みんなうちから近くて便利でしょう。息子の将来についても、いろいろ考えているんですよ」

「希望」で保養をした頃のエレナは、周りのほかの子たちよりおとなしくて控えめな女の子だったことをよく覚えている。しかし、いま目の前にいる彼女は、もうあの頃とは違い、自立した頼もしい女性に成長している。

~~~~~

他の甲状腺手術を受けた人たち同様、ナターシャもエレナも、ホルモン剤の服用と定期検査が欠かせません。幸いにもそれぞれの子どもたちに健康上の大きな問題はありせん。しかし風邪をひいたり、アレルギーにかかったりなどすると、やはり子どものことが気になり、自分の健康を気遣うことを忘れがちのようです。

## ロシアによるウクライナへの軍事介入についての声明

### ～私たちは平和的な解決を望みます～

私たち「チェルノブイリ子ども基金」は、チェルノブイリ原発事故で被災したウクライナとベラルーシの子どもたちを対象に20年あまりにわたって救援活動を行ってきました。

すでにマスコミ報道その他で大きく伝えられていますように、私たちが支援対象としているウクライナの情勢が極めて緊迫し、「戦争の瀬戸際」に陥っています。

子ども基金では毎年夏に、ウクライナの汚染地域に暮らす子どもたちについては、温暖なクリミアのサナトリウムでの保養に招待してきました。多くの子どもたちが、ここでの保養を楽しみに待っていましたが、今はもう、この場所での保養も難しそうです。

今後、医療、食品、日用品など、チェルノブイリで被災した子どもたちの生活にも深刻な影響が及ぶ可能性が危惧されます。

これ以上混乱が拡大すると、一番影響を受けるのは、社会の中でも特に弱い立場の人々です。

いま、国や民族を超えて、責任あるおとなたちは、武力や脅しではなく、未来を担う子どもたち、声をあげることも逃げることも難しい立場の人々のことを思いながら、知恵を絞り真剣に、問題を平和的に解決するよう、私たちは声を大にして訴えます。

2014年3月3日

チェルノブイリ子ども基金  
代表理事 向井雪子  
事務局長 佐々木真理  
顧問・理事・監事一同

<上記の声明文は、子ども基金のホームページに掲載しました。>

## チェルノブイリ原発関連のニュース

(2014. 2. 13~2. 23)

### 2/13<チェルノブイリで新たな発電所建設>

イタリアの企業 Vapiemme Solar S.R.L 社は、チェルノブイリの立入禁止ゾーン内に太陽光発電所を建設する。今日、同社とウクライナ環境保護省、立入禁止区域管理庁との間で覚書が交わされた。この覚書では、立入禁止ゾーン内に出力 0.5MWt の太陽光パネルを設置することや、発電所の建設に関する協力、太陽光発電の実現に関して記されている。「我々の関係機関と、廃棄物処理の最新技術の利用、さらに太陽光発電の実施や設備の建設で大きな経験を有するヨーロッパ企業との間の協力により、ウクライナ経済の環境配慮型モデルへの転換、さらに新たな電力源の開発に向けた最初の着実な歩みが促されることになると確信している」とオレグ・プロスクリャコフ環境相は述べた。【ウクライナ/TSN (TV 1+1)】

### 2/14<チェルノブイリ原発 4 号炉機械ホール内の崩落構造物、春に再建>

チェルノブイリ原発広報局によると、チェルノブイリ原発では、2013 年 2 月に一部崩落した 4 号炉機械ホールの建設構造物の再建作業が 2014 年 3-4 月に完了する見通しとなった。「シェルター」施設の該当箇所では、4 号炉機械ホールの屋根と壁面の事故による開口部を覆う組立作業が続けられている。さらに作業計画通りに進めば、建設物の組み立ては、2014 年 3 月 1 日に完了する見通し。チェルノブイリ原発 4 号炉では 2013 年 2 月 12 日に壁面パネルと屋根の一部が崩落する事故が発生し、その破損面積は約 600 平方メートルだった。【ウクライナ/UNIAN 通信】2/17<チェルノブイリ原発の 3 基の原子炉の廃炉費用を再算出>さきに 2028 年までに 3850 億フリヴナ[UAH]を要すると見積もられたチェルノブイリ原発の 3 基の原子炉の廃

炉に要する費用について、チェルノブイリ原発当局は、3 億 8500 万フリヴナに算出しなおしたことを明らかにした。この中でチェルノブイリ原発側は、「2014 年 2 月 14 日付チェルノブイリ原発 1 号炉、2 号炉、3 号炉の完全閉鎖と密閉化プロジェクト計画の検討に関する専門家算定を受領したことに係る発表において、プロジェクト予算の表記に誤りがあった」としている。UNIAN 通信がさきに報じたところによれば、チェルノブイリ原発プラント敷地内に使用済み核燃料及び放射性廃棄物の処理インフラを整備するための費用として、2013 年には 525 億 5300 万フリヴナが拠出されている。ウクライナにおけるチェルノブイリ原発の新たなシェルター設備の建設プロジェクトは、ノヴァルカ社が担当企業として指名されている。事故を起こした 4 号炉を覆うシェルター設備の建設作業は 2015 年までに完了の予定。そのための予算は 9 億 8 千万ユーロと見積もられ、ノヴァルカ社のコンツェルンとの契約は 9 億 3500 万ユーロとされる。【ウクライナ/UNIAN 通信】2/23<ウクライナの原発通常稼働>ウクライナ原子力公社「エネルゴアトム」広報局によると、ウクライナ国内の原子力発電所は、通常状態で稼働しており、原発事業体の警備員及び内務省内務軍部隊により警護が強化されている。また、それによると、現在の政治危機の条件下においても原発の警護、防御システムは休みなく機能しており、原子炉関連設備及び核物質の警備レベルが高められているという。「原発の安全操業を損なう恐れのある何らかの行為がありうる可能性のあることを示す、いかなる兆候も認められていない」と同社では強調している。【ウクライナ/forUm】

(情報収集・翻訳：平野進一郎)



## 里親のページ

### 里親からのメッセージ

◆里子のヤーナとは時々英語でメールをやりとりしています。彼女の病歴を考えると、いま元気で過ごしてくれていることが、本当に天の賜物のように思えます（貴会の会誌を読むにつけ、その思いは強まります）。チェルノブイリの子どもの健康と幸せを、心から祈ります。（岡山県 Sさん）

◆セルゲイ君は大学で薬学を学んでいます。今もロックを続け体格も良くなりました。昔、横浜にチェルノブイリの子どもたちが来たときに、子どもたち皆が甲状腺に異常があるのに、将来の夢を明るくしっかりと語っていたのが印象的でした。何故なんだろう、なんでこんなに前向きなんだろうと思いました。セルゲイ君もまさに真っ直ぐに目標に向かい頑張りました。本当に明るくて、偉いです。私も励みになります。（神奈川県 Eさん）

※Eさんは、里親支援を終了された後も文通を続けています。

### 里子の家族からの手紙

◆ナザールの検査のため、ミンスク市の病院に行ってきました。検査では悪いところはありませんでしたが、足は相変わらず動きません。でも私たちはあきらめません。きっとよくなることを信じています。昨日は家族みんなでIさんのお誕生日をお祝いしました。ご健康とお幸せを心からお祈りしています。（ベラルーシ ポーブル家より）

### 2014 年 1 月から里親支援を受ける子どもたち

**V・ウラディスラフ**（男） 2010 年生まれ  
（ウクライナ・ジトームル州ナロジチ地区）  
脊椎の筋委縮症

**B・マルガリータ**（女） 1998 年生まれ  
（ベラルーシ・ゴメリ市）甲状腺がん

**L・カリーナ**（女） 2002 年生まれ  
（ベラルーシ・レチツァ市）脳腫瘍

**L・アレクサンドラ**（女） 2003 年生まれ  
（ベラルーシ・レチツァ市）脳腫瘍

**T・ボグダン**（男） 2011 年生まれ  
（ベラルーシ・ゴメリ市）右腹膜腔の神経芽細胞腫

上記のほか、3 人の子どもに里親が決まりました。



里親の方や事務局宛てに現地から色とりどりのクリスマスカードが届きました。

＊里親制度について詳しくお知りになりたい方は事務局へお問い合わせください。資料をお送りします。



# 黒部ドクターのお話



## ～ 花粉症の話 ～

昨年に続き今年もまた「花粉症」を取り上げます。その理由の第一は、病気の原因は人が環境（自然環境、社会環境、家庭環境、心理的情緒的環境）に適応できない時になるという病原環境論の説明と、第二は、最近花粉症の薬で昨年お勧めした薬が薬局で買えるようになったことです。

花粉症を始めすべての病気は、その人の持つ遺伝的要因（遺伝子など）とそれを発現させる環境因子により発病するというのが病原環境論です。遺伝子と言うものは、すぐ発現するものと、条件が整うと発現するものがあります。遺伝子を持っただけで病気になるという、古典的遺伝病に分類できない病気が次々と見つかっています。同じ遺伝子を持っていても必ずしもその病気になるとは限りません。私の理論では、環境に適応できない時に遺伝子が動き出して、発病すると考えるのです。ですからすべての人が、すべての病気になる可能性はなく、その人の持つ遺伝子によるのです。誰もが花粉症になるとは限らないのです。またその遺伝子を持っていてもならないこともあるのです。

ヒトを川の流に例えると、流れが静かであれば、川の水はあふれません。しかし、水の量が増えてくると堤防の弱点から水があふれて来ます。その時に病気になるのです。弱点は人それぞれ違います。それは遺伝的に左右されています。一卵性の双子のかかる病気の一致率は、病気によって16～75%と違います。喘息は25%と言われ、アレルギー性鼻炎（花粉症など）も喘息と同じと考えられています。現代では、自然環境はスギなどの花粉で、社会環境は家庭や学校や職場、そしてその中でストレスがあり、発病してくるものと考えられます。ですから、原因のどれかを無くせば病気はよくなるのです。一つは花粉、もう一つはストレスです。だから、結婚、子どもの誕生、職場の変化などで生活環境が変わると病気がよくなる人が出て来ます。また逆に就職、職場の配置換え、昇進によるストレス、転職などで環境が変わったら花粉症になる人も出て来ます。しかし花粉症を恐れることはありません。のびのびと生きること、嫌なことを我慢しないこと、楽しみを見つけることなどです。自分の好きなことを仕事にしている人は、病気にかかりにくく、我慢してい

る人は病気になりやすいのです。ストレスは受けた瞬間に体が反応してしまいます。その対策は、それを受け止めず、「まあいいか、しょうがないや」とともに向き合わないことです。嫌なことを断れば良いのですが、なかなかそうは行かないのが現代社会です。家庭では、話し合いができますが、職場では難しいこともあります。ストレスの多い時代になったため、花粉症の人も増えているのです。花粉症の花粉対策も、ストレス対策も難しい場合には、何とか薬でしのぎましょう。

第二のことは、今までは医療機関でしか入手できなかった薬が、一般の薬局で処方箋なしで買うことができるようになりました。保険が使えないので高くなりますが、忙しい人には朗報です。それが抗アレルギー剤（正確には第二世代の抗ヒスタミン剤）のアレグラとアレジオンの二つです（ジェネリックもあります）。抗ヒスタミン剤は、かぜ薬の眠気を起こす鼻水の薬なのですが、この二つは、眠気がほとんど出ないように開発された薬です。しかも、日本では、「飲み続けなさい」と言われますが、欧米ではかぜ薬と同じように、よくなったらやめて、又症状が出たら飲むと言う方法をとっています。ひどい人は続けていると症状が出ずに楽ですが、軽い人は適当に飲めばよいです。これでおさまらない人は、医師にかかりましょう。目薬は、かゆい時だけ使うステロイドの点眼液のフルメトロン0.02%（コンタクトの人と緑内障の人はだめ）、点鼻薬は、やはり鼻水がひどい時だけ使うステロイドのフルチカゾン点鼻液が使いやすいです。他に、インターール系の毎日使い続けると効く目薬と点鼻薬があります。しかしよくなってやめしまうと、また症状が出るので、シーズンが終わるまで使わなければいけません。医師とよく話し合っ、自分の希望を伝えて処方してもらいましょう。できるだけ仲良く付き合えるかかりつけの医者を見つけることです。

昨年の基金ニュース3月号をお持ちの方は、一緒にご覧になるとよく判ると思います。

黒部信一：すずしろ診療所所長 小児科医師

黒部信一のブログ <http://kurobe-shin.no-blog.jp/>

# ふくしま便り



## 弱く小さくさせられているいのちに寄添う

私が生まれ育った福島県会津若松市は雪国で、今年も一晩で約1m積雪しました。雪かきは重労働で大変ですが、子どもの頃にはしゃいで登校していたことや兄弟・友達と雪合戦をしていたことを懐かしく思い出していました。しかし今、雪かきしながら感じることは悲しさ、切なさ、悔しさです。「どこに雪をまとめれば駐車しやすいのか。ここに雪を固めたら子どもが遊びやすいかなあ」と考えながら雪かきをしていました。ふと顔を上げた瞬間、その光景に衝撃を受けました。それは雪が除染した土に見えてしまったためです。原発事故によってまき散らされた放射能が自分の生まれ育った家や庭を汚染したことを気付かされました。それと同時に、兄弟や友達と一緒に遊んだ楽しい思い出までも汚染されたと感じ、雪がしんと降るなか、私は涙が止まりませんでした。

東京電力福島第一原発事故によってたくさんの権利と自由が奪い去られました。原発事故が起きて良いことは何一つありません。自分の家で採れたお米や野菜を安心して食べることが出来ないことへの不安。高放射線量の地域にある自分の家・地域から離れることを余儀なくされた人々。自分や子どもたちにのちに出てくるかもしれない健康被害に不安を抱く毎日。あの事故から日々、恐怖・悲しみ・怒りを感じながら生活しています。

福島県内のテレビ番組では天気予報のあとに、各地の放射線量が出ます。会津若松市は他の地域との数値を比較し、『比較的放射線量の低い会津地方』と言われ、『安心して住める避難先』と考えられています。事故以降、会津の住民のほかに強制避難者や区域外からの県内自主避難者が生活しています。会津の住民は、強制避難者や県内自主避難者との痛み比べをし、観光による復興を掲げている地域だからこそ放射能への恐怖を口に出すことが難しくなっています。さらに会津を避難先と選び生活している避難者は、『自分たちが生活することによって、安全だという証拠を作ってしまう、会津から避難したい人の足かせとなっているのでは』と不安を口にします。また放射能に対する認識の違いから夫婦間や家族、地域住民が分断され、人間関係は複雑になり、根深い問題

となっています。

福島県内には除染作業している地域がいくつもあります。しかし、会津若松市は除染重点地域として国に申請せず、除染を全く行っていません。除染は汚染されている事実を認めることとなり、観光による復興を掲げている会津若松市は観光客が来なくなることを恐れたためです。昨年は大河ドラマの舞台となり、震災前と変わらない数の観光客が会津若松市を訪れました。もし、これから除染を行えば「汚染されている地域に観光客を呼んだ」と証明してしまうことになるので、会津若松市が除染することはないと考えます。校庭や園庭、公園の除染をしないことで、『いくら比較的放射線量が低い地域とは言え、土壌が汚染されているところで子育ては出来ない』と今もなお会津若松市から県外へ多くの方が避難しています。選択の自由を奪われながらも子育てをせざるを得ない現実を突きつけられる親、安全な環境でのびのびと成長することが出来ない子どもの身体的・精神的負担は明らかです。

私は現在、会津放射能情報センターのスタッフとして活動しています。主な活動としては食品測定や土壌、空間線量測定のほかに、日頃抱いている不安や想いを共有出来る場所としての意見交換会「しゃべり場」を開催しています。さらに信頼できる内科医と精神科医による健康相談会を開催し、専門的な立場からの判断を受けています。安全かどうか決めるのは、私自身です。国は国民に真実を知らせる義務があります。国が安全基準を決めて国民に押しつけるのではない。現実に向き合うことや数値を知ることは正直恐怖を感じます。しかし、真実を知ることによって、いのちを守ることが出来るのです。

国や地方自治体が放射能による健康被害への影響はないと主張することによって、放射能に対する恐怖・不安を口にすることが難しい現実があります。その弱く小さくさせられている存在と想いに寄り添う活動を会津放射能情報センターは続けています。

政府と東京電力は救済を求めている子ども・大人・お年寄りすべての方への損害賠償をし、すべての被災者が一刻も早く支援されるようにこれからも声を上げ続けます。

会津放射能情報センター 片岡自由



→ p. 13 へ続く

**2013年度決算報告書**  
【2013年1月1日～12月31日】

| 収 入             |            | 支 出             |            |
|-----------------|------------|-----------------|------------|
| 項 目             | 金 額        | 項 目             | 金 額        |
| 前期繰越            | 18,578,377 | 救援              |            |
| 募金              |            | 医薬品・物品          | 3,668,118  |
| 救援一般            | 10,329,627 | 保養費*2           | 2,696,879  |
| 保養費             | 1,109,090  | 特別保養費           | 3,477,112  |
| 特別保養費           | 1,707,055  | 団体運営費*3         | 1,417,800  |
|                 |            | 里子支援*4          | 5,278,863  |
| 里子支援            | 4,807,020  | 緊急支援            | 698,781    |
|                 |            | 奨学生支援*5         | 55,920     |
|                 |            | 派遣費             | 344,098    |
|                 |            | 送金・為替手数料        | 120,000    |
|                 |            | 未来の福島こども基金      | 813,400    |
| 救援キャンペーン        |            | 救援キャンペーン        |            |
| 2013年4月イベント     | 824,765    | 2013年4月イベント     | 577,885    |
| 2014年4月イベント     | 42,000     | 2014年4月イベント     | 81,700     |
| 夏の保養報告会         | 18,800     | 夏の保養報告会         | 16,000     |
| 購読料・運営費*1       | 1,541,000  | 事務運営費           |            |
| 預貯金利息           | 1,857      | 国際 Tel・Fax      | 2,080      |
|                 |            | 国内 Tel・Fax      | 81,883     |
|                 |            | 印刷・コピー費         | 176,255    |
|                 |            | ニュースほか発送費       | 1,121,328  |
|                 |            | 人件費             | 3,046,083  |
|                 |            | 交通費             | 469,542    |
|                 |            | 事務消耗品費          | 192,712    |
|                 |            | 事務所費            | 1,265,133  |
|                 |            | 広告・宣伝費          | 78,738     |
|                 |            | 資料・会議費          | 16,590     |
|                 |            | 国内振込手数料         | 1,952      |
| 物販売上            |            | 物販仕入            |            |
| 本・ポストカード・CD・民芸品 | 106,810    | 本・ポストカード・CD・民芸品 | 22,017     |
| カレンダー2013       | 936,223    | カレンダー2013       | 50,410     |
| カレンダー2014       | 2,519,580  | カレンダー2014       | 1,778,487  |
| 小 計             | 42,522,204 | 小 計             | 27,549,766 |
|                 |            | 次期繰越金           | 14,972,438 |
| 合 計             | 42,522,204 | 合 計             | 42,522,204 |

\*1 (株)カタログハウスからの運営費100万円含みます。

\*2 2012年度会計にも2013年度支援2,266,320円が含まれています。

\*3 現地団体のスタッフ給与、事務所費など。

\*4 里子支援69人分(経費1割、2014年1～6月支援分も含みます)

\*5 奨学生支援1人

\* 切手3,260円、図書カード500円分も寄贈されています。

\* カレンダーの収入・支出とも次年度にまたがります。2013年度のカレンダー収益は2,449,418円でした。

2013年度の会計監査の結果、適正であることを認めます。

2014年2月15日

会計監査

監事 鈴木 由利子

監事 清水 玲子





## 募金・救援状況



### 募金団体名一覧

#### ●募金状況 2013年12月～2014年2月 (単位:円)

|           | 12月              | 1月               | 2月             |
|-----------|------------------|------------------|----------------|
| 募金件数      | 331件             | 171件             | 51件            |
| 救援寄付金     | 2,195,548        | 538,257          | 293,873        |
| 保養費       | 224,640          | 36,000           | 8,000          |
| 特別保養費     | 280,000          | -                | -              |
| 里子支援      | 537,530          | 1,485,180        | 155,920        |
| ニュース購読費   | 84,000           | 48,000           | 24,000         |
| イベント賛同金   | 42,000           | 21,000           | 7,000          |
| <b>合計</b> | <b>3,363,718</b> | <b>2,128,437</b> | <b>488,793</b> |

☆ほかに現物寄付として切手 3,400 円分

#### ●救援状況 2013年12月～2014年2月 (単位:円)

<ウクライナ>

##### ◎子どもたちの生存

里子支援 12 人(2014 年 1～6 月分) 386,919

緊急支援 1 人 29,763

<ベラルーシ>

##### ◎希望 21

保養費(全期分) 5,174,676

##### ◎困難の中子どもたちへ希望を

クリスマス・新年会支援 (p.3 をご参照ください) 100,000

里子支援 52 人(2014 年 1～6 月分) 1,642,056

緊急支援 3 人 94,734

奨学生支援 1 人 31,044

医薬品 1,262,456

運営費(家賃、通信費、現地手数料) 448,361

#### ～チェルノブイリの歌声～ (p.9 からの続き)

★今、日本にはいくつかの原発があり、もしそこが爆発してしまったら、ただでさえ狭い日本がさらに狭くなってしまい様々な問題が出るかもしれません。放射能は目に見えないもので、人を苦しめてしまうので、なおさら怖いと思いました。(A さん) ★チェルノブイリ原発事故のことは知っていましたが、病気で苦しんでいる子どもたちの写真を見たときにウルツとききました。僕たちにできる事は何だろうという考えが芽ばえてきました。もう二度と原発事故なんておきてほしくないと思いました。(M 君) ★話の中で、知らないことが沢山ありました。自分たちで自分の家を作って、しかも畑も持っている、食料は自分で育てるのはすごいと思いました。それと、ウサギを食べるなんて知らなかったです。それとびっくりした事は、放射線の半減期の長さで、そんなにひどいのかと思いました。

(J 君) ★自分は募金をした事が何度かあり、また他の人も同様にして募金活動に参加していたので支援は充分だと思い込んでいましたが、まだ支援が行き届い

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。ご寄付をいただいたみなさまに心より感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

【12 月】 日本キリスト教会 浦和教会 日曜学校／葦の会／千葉友の会／川西友の会／One Voice AIZU／ドネーションシップ わかちあい／(株)ジョイメイト／日本キリスト教会 大阪北教会 婦人会／川和保育園／照恩寺／小池音楽教室／友愛富士見町保育園／(株)京枝屋／覚正寺／広島女学院中学高等学校／(有)久保明事務所／(株)you2／カトリック徳田教会／代々木上原教会／大阪友の会／イエス・キリスト教会 祈りの家／ラボ阿部パーティ／トランスフェリックマネジメント

【1 月】 恵泉女学園中学・高等学校 宗教部／チェルノブイリ被爆者支援の家チェル／トランスフェリックマネジメント／松山古町教会 CS／日本基督教団 代々木上原教会／自治労日野市職員組合／三重・チェルノブイリ被爆児童救援募金／日本基督教団 田名部教会／(株)ジョイメイト／川和保育園 父母の会／青山学院女子短期大学同窓会／自治労横浜総務支部／チェルノブイリ子ども基金奥羽

【2 月】 実教出版放射能倶楽部／ACT21／北陸学院中学校・高等学校／(株)ジョイメイト／日本キリスト教団 広島船越教会／トランスフェリックマネジメント／パルシステム東京／(株)音楽センター／三重・チェルノブイリ被爆児童救援募金

#### 2014 年版救援カレンダー収益

2014 年版救援カレンダーの収益は 2 月末現在 **1,637,848 円** です。多くの皆様にご協力いただき厚くお礼申し上げます。福島子どもたちへの支援として **400,000 円** を《未来の福島こども基金》へ寄付いたしました。

《未来の福島こども基金》

<http://fukushimachildrensfund.org/>

聞いていない地域子どもたちがたくさんいるのだということを知りました。もっと積極的に活動したいと思いました。今日学んだことはこれからの自分の将来に活かして生きていこうと思います。(Y 君) ★東日本大震災の日、福島原発から放射能が出ました。当時小 6 だった私は、原発の恐ろしさを全く知りませんでした。なぜこんなにもテレビで放送するのか。この講演でいろいろ学びました。(O さん)

# 事務局から

## ■ボランティア募集

◎4/12(土)～4/16(水)「写真展」設置、受付ボランティア募集。文京シビック1F 展示室(東京都文京区)。4/12 設置:9時～12時。4/12～4/16 受付:10時～20時(4/12のみ12時～)。短時間でも歓迎です。

◎事務局での平日・土曜日のボランティア作業は不定期に行っています。前もってお問い合わせください。

◎ニュース発送作業(年4回:3・6・9・12月)

次回 日時:6/21(土)午後1時～4時頃まで

場所:東京ボランティア・市民活動センター/会議室B(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)

※日程・時間に変更になる場合もありますので、ボランティア参加ご希望の方は、予めご連絡ください。

【問い】平日午前10時～午後5時 留守の場合は伝言をお願いします。T&F: 03-5228-2680

## ■イベント宣伝にご協力をお願い

4月に開催のチェルノブイリ28周年イベントにつきまして、周りの方々に広めることにご協力をお願いいたします。イベントチラシを配布、または設置いただける方はどうぞご連絡ください。事務局からお送りいたします(イベントや集会で配布して下さるのも大歓迎です)。また、参加されているMLなどにもぜひ情報を流してください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## ■「基金ニュース」について

募金をくださった方には、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュースレター購読費

(2,000円/年)も募っております。

印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。



## 【編集後記】

昨年11月からウクライナの首都キエフにある独立広場周辺で続いていた反政府デモ。2月に入って相次いだデモ隊と治安部隊による衝突では多数の死者・負傷者が出ました。デモが激化して以来、子ども基金は、キエフ市の慈善団体をはじめ、これまで子ども基金と関わりのあった人たちと連絡を取り合ってきました。それらの人々の中で、この衝突による被害者となっている人はいない模様です(このデモに対する見方は人によってさまざまです)。尚、現在子ども基金が支援をしている子どもたちは、キエフ近郊の町と、ジトミール州の村に住んでいるため、被害などはありません。また、子ども基金が長年医薬品などの支援を続けている、甲状腺の患者を受け入れている内分泌研究所(p.3 参照)も、キエフ市の中心からは離れた場所にあり、影響を受けていません。

不安定な政情の中で一番先に影響を受けるのは病人・子どもなどの弱者ですので、今後、ウクライナの方が安定に向かうことを切に祈ります。

✿ いつもあたたかいご支援をありがとうございます。振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

### すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

### 払込取扱票のお名前・ご住所は 楷書でご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読づらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

### 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

### 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書が入り用の際はお申し出ください。

## ●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年4回発行●

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25 メゾンド原207号室 Tel/Fax 03-5228-2680

ウェブサイト [http://homepage2.nifty.com/chernobyl\\_children/index.html](http://homepage2.nifty.com/chernobyl_children/index.html)

E-mail: [chernobyl1986@tokyo.email.ne.jp](mailto:chernobyl1986@tokyo.email.ne.jp)

事務局ブログ ◇神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/chernobyl1986jimukyoku/>

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。